

第9回日本大学土木設計競技の総評

審査委員長 鎌尾彰司

テーマ：自然災害から人々の生活と命を守る” ー未来を守る防災の提案ー

第9回目の土木設計競技は「自然災害から人々の生活と命を守る」というテーマで実施いたしました。応募に関しては、12チームからあり、1次審査は8月下旬にポスター審査で実施されました。ポスター審査は提出されたポスターを各審査員がその出来映え等を評価するもので、各審査員の評価点の合計点数順に8チームを2次審査へ推薦することにしました。

2次審査は、対面式で実施する予定でありましたが、当日は台風14号の影響で8チームの内7チームが大学での発表に出席できない状態となったため、ハイブリッド式で対面式とオンライン式の発表に切り替えさせていただきました。2次審査では8チームにプレゼンテーションをしていただき、その後質疑応答の時間を取り、各応募者からの提案を詳しく聞かせて頂きました。2次審査においては発表内容、発表態度、質疑応答での受け答え等を主眼に採点を行い、そして、1次審査点と2次審査点を合計して、最優秀賞1チーム、優秀賞2チーム、特別賞2チームして入賞3チームを決定させていただきました。

1次審査の12チームの発表内容ではありますが、しっかりと調査をしてポスターにまとめているチームが多かったですが、中にはポスター制作に時間がとれずに提出したチームなども見られました。さすがに2次審査の各チームは、プレゼンテーションにおいてもポスター内容と同様にレベルの高さを感じました。審査員間での話し合いでは、8チーム共にポスターのレベル及びプレゼンテーションの技術が高く、優劣を付けるのに大変苦勞をしました。点数で差が出たところは、質疑応答の部分であったと思います。質問に答えることで、どれだけ自分たちが自信を持って調べてきたかが問われる部分になります。このあたりまでしっかりと行えたチームが上位にきているように感じました。

以下、各チームの発表に触れたいと思います。

最優秀賞のチーム・アンブレラは、愛媛県ならではの渇水対策をテーマにされ、東京に暮らしている我々には想像もできない「下水処理水を浄水場に送る」というもので、驚かされました。これも渇水の苦しみを知っている地元で暮らしていないと分からない内容で迫りを感じました。

優秀賞のチーム・STREAMは、設計競技らしく水の流れを数式で計算し、それを自作の模型実験で実証するという内容で、津波被害を軽減するためのものでありました。特に実験にチャレンジしていただいた努力は見事と言う他ありませんでした。

優秀賞の2チーム目は、当日唯一対面式で臨んでいただいたSSAチームでありました。地元の様子をよく調べられてあり、洪水防止のため棚田に水をためるアイデアにはびっくりしました。多量の降雨により大きな被害が発生しているための秘策になるのではないかとこのレベルでの発表でありました。

審査員特別賞のチーム・ベアブック3は、線状降水帯の対策を、ハード面の対策とソフト面の対策に分けてポスターの字が小さくて見えなくなるくらい詳しく調べていただき、発表してくれました。シビルエンジニアリング賞と名付けさせていただきました。

審査員特別賞の2チーム目は、チーム・工業クラブBでありました。1年生2名によるフレッシュさあふれる発表でありました。内容は降雨による冠水等をなくすために小中学校の校庭に一時的に水をためるアイデアでありました。市内の校庭にためられる水の量のしっかりと計算もされており、見事なものでありました。クリエイティブ賞とさせていただきました。

残りの3チームが入賞となります。発表は上記チームと変わらないレベルでありました。チーム・工業クラブAは、英語のプレゼンに取り組んでいただき地元が存在する活断層についての話題でありました。チーム・島工_土木科は、地元の海を取り上げ、津波を軽減させるための方法に挑まれておりました。チーム・しばなんは災害時用にヘリポートを備えた避難拠点を設計していただき、現地調査によって設置場所や設置規模まで調べておられました。質疑応答でもう少し自信を持って対応することで得点も大きく伸びたと思われま。次年度以降の参考にしていただければと思います。

各チームとも地元の人々の暮らしや命を守るとても素晴らしい提案で、あと一工夫すれば市役所等に提案できるくらいの設計のレベルであると感じました。次回大会以降も自分たちでさらに発展させた内容にしていだいたり、後輩にしっかりと引き継いだりしていただき、地元の人々に安心と安全を届けていただきたいと思います。大学でもそのお手伝いをさせていただければと思います。

若き土木技術者として将来有望であることを感じる事ができる設計競技会でありました。参加いただいた皆さんが将来に土木分野の各方面で活躍されることを期待しております。

最後になりましたが、応募していただいた各チームそして指導いただいた先生方、そして審査いただいた諸先生方、最も苦勞された実行委員の方々に御礼申し上げ、総評とさせていただきます。